

「東広島市職員行動理念」の策定にあたって

昭和49（1974）年の合併以来、東広島市は、賀茂学園都市建設、広島中央テクノポリス建設の2大プロジェクトを推進するとともに、学術研究機能の集積や成長力のある企業の生産活動などにより、その時代に応じたまちづくりを展開し、一貫して成長を遂げてきました。

我々は、先人の並々ならぬ労苦に想いを馳せ、これまで培われたまちづくりの歴史を踏まえつつ、東広島市の更なる発展を追求していく必要があります。

しかしながら、本市を取り巻く社会経済情勢の変化は、激しく、複雑なものとなっています。我々は、まさに、人口減少社会の到来やグローバル化の進展、過疎・過密の問題など、複雑で困難な多くの課題に直面しています。

そういった多くの課題を内包した不確実な社会において、我々、東広島市職員にとって、理想とするまちのビジョンを全員で共有し、組織の目指すべき姿を掲げ、それを実現するための基本的価値観を定めることが重要となります。判断の拠り所となる価値判断基準があれば、困難な課題に直面したとしても、間違った方向に進むことはありません。

この行動理念は、まさに、こうした組織としての価値判断基準を具体化したものです。行動理念は策定して終わりではありません。時代が変わっても受け継がれていく普遍的な理念として、全ての職員が常に傍らに置き、その精神を意識し、実践していくことにより、組織としての一体感を醸成し、仕事をしていく上での方向性を合わせていくことができるものと考えています。

職員の皆さんが「東広島市職員行動理念」を熟読し、その精神を実践されることを期待するとともに、自らの仕事が直接、市民の幸せに繋がっているという責任と自覚を持って、職務に臨んでもらいたいと思います。

平成30年11月5日

東広島市長

高 畑 廣 徳